

伊藤ハムグループ
2009年 CSR報告書
Ito Ham Group Corporate Social Responsibility Report

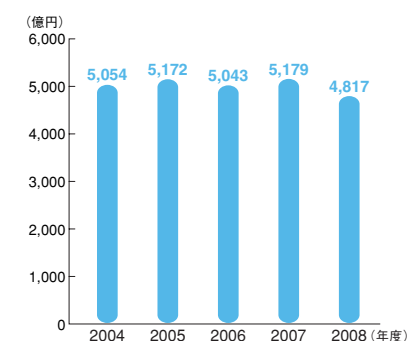


会社概要 (2009年3月現在)

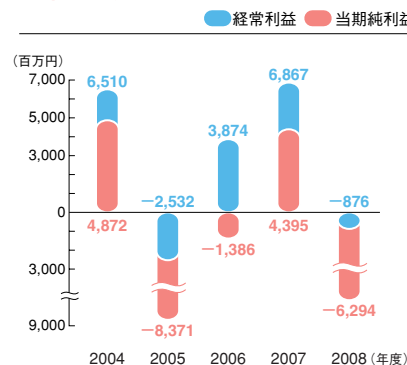
会社名	伊藤ハム株式会社	
設立	1948年(昭和23年)	
創業	1928年(昭和3年)	
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号	
代表者	代表取締役社長 河西 力	
資本金	284億2,700万円	
売上高	4,817億2,800万円(連結)	
連結対象会社	連結子会社	34社
	持分法適用関連会社	10社
従業員数	2,363人(連結:5,945人)	
主な事業	● 食肉加工品の製造および販売 ● 食肉の加工および販売 ● 調理加工食品、惣菜類の製造および販売 など	

業績(連結)

売上高の推移



経常利益／当期純利益の推移



「2009年 CSR報告書」について

編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で10回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

今回の報告書では、2008年度のCSR活動の報告を主な内容として、「お客様」「株主・投資家様」「地域社会」「従業員」など多様なステークホルダーの皆様に対して、分かりやすくお伝えするために、より簡潔な表現、親しみやすいデザインを心がけました。開示すべき事項で優先度の高いものや皆様の関心が高いと思われるものを掲載し、サイトごとの詳細データ等については、Webサイト(弊社ホームページ)に掲載します。

■弊社ホームページ:
<http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

◇報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

◇報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

◇対象期間

基本的には2008年度(2008年4月1日から2009年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2008年度以前、以降についても報告しています。

◇参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版および2007年度版)」
GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン2006」

※「環境保全活動」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。

INDEX

会社概要／「2009年 CSR報告書」について 1

トップコミットメント

ごあいさつ 3

マネジメント

経営方針(社是、企業理念、グループ経営ビジョン) 5

コンプライアンス 6

消費者の皆様とともに

安全・安心への取り組み 9

お客様の声の反映 10

食育 11

株主・投資家様とともに

企業情報開示・IR活動／開かれた株主総会を目指して／株主優待制度 13

地域社会とともに

社会貢献活動 14

ユニセフ支援活動 15

自然環境保護活動／ボランティア支援活動 16

従業員とともに

人材の育成・雇用 17

労働安全衛生／健康管理 18

環境保全活動

環境宣言(基本理念、行動指針) 19

環境負荷の全体像 20

第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 21

2008年度の活動ハイライト 23

マネジメント 24

環境負荷低減の取り組み 26

環境情報開示 31

従業員教育・地域とのコミュニケーション 32

環境会計 33

環境データ 34

環境保全活動の沿革 38

真に社会性のある 企業を目指して



代表取締役社長

河西 力

コンプライアンス体制の再構築と強化

伊藤ハムは昨年10月東京工場において地下水を原因とする製品回収問題を引き起こし、消費者の皆様、お取引先様をはじめステークホルダーの皆様方に多大なるご心配とご迷惑をおかけすることになり、心から深くお詫び申し上げます。今後二度とこのような問題を起こさぬよう、社外学識経験者の方々から構成された調査対策委員会による原因究明、社内管理体制の構築に関する報告書を厳粛に受け止め、全社を挙げてコンプライアンス体制の強化を図ってまいります。

具体的施策として、まず私自身が全国の全事業場の従業員に対して、私自身の「経営トップメッセージ」として「コンプライアンスの徹底」を直接訴えました。次に「草の根レベル」からのコンプライアンス強化策のひとつとして、全社のコンプライアンス体制統括組織であるCSR連絡委員会の下部組織として新たに「コンプライアンス委員制度」を発足させました。これは全国の若手社員の中から163名のコンプライアンス委員を選び、それぞれ担当事業場を定め、その事業場でコンプライアンス違反問題が発生しないよう監視・

予防する仕組みを構築したものです。コンプライアンス委員が所属する職制からの影響を排除するため、コンプライアンス委員はCSR本部の指揮命令に従って活動し、日常業務の中に潜む内部統制のほころびを発見、改善してまいります。さらにコンプライアンスの徹底には社員全員の意識と知識の向上が不可欠との認識から、全従業員を対象としたコンプライアンス教育プログラムを引き続き充実させてまいります。このような施策を通じて全役職員が一丸となってコンプライアンス体制の再構築と強化を図り、ステークホルダーの皆様の信頼の回復に努めます。

伊藤ハムには「事業を通じて社会に奉仕する」という社是があります。社会から本当に信頼される企業として成長を続けるために、伊藤ハムでは事業分野以外にも「食育活動」「ボランティア活動」「地球温暖化防止活動」などさまざまな切り口から社会に奉仕する活動を行ってまいりました。今後ともこれらの活動を通じて広く地域社会を含むステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを充実させ、真に豊かな社会づくりとともに目指す方針に何の変わりもございません。

「食育」を通して「あふれる笑顔」の実現

伊藤ハムは「伝えていきたい食べるよろこび」を食育活動のメインメッセージとして「食育」に関するさまざまな活動に取り組んでおります。新たな活動として、創業80周年を記念して、幼稚園児を対象にしたイベント「スマイルキャラバン」を展開いたしました。これはキャラバンカーを使ったショーやクイズで、朝食をきちんと取ること、バランスの良い食事を取る大切さをお伝えするとともに、食べ物に対する関心や食事をつくることの楽しさを感じていただける内容となっております。これらの活動を通じて伊藤ハムのコーポレートメッセージである「あふれる笑顔」を広く次世代の子ども達にも伝えてまいります。

ボランティア活動を通じた「社会貢献」

伊藤ハムは企業が地域社会に貢献するためには、従業員の地域社会への帰属意識と地域社会活動に対する積極的な参画意識を高めることが重要であると認識しております。そのために伊藤ハムでは従業員の社会貢献活動への積極的な参加を促す目的で、ボランティア体験学習やボランティアセミナーを開催するとともに、ボランティア休暇制度やボランティア表彰制度を充実させ、従業員の参画意識の高揚を図っております。

具体的活動例を挙げますと、六甲山の森を守り育てることを目的とした「こうべ森の学校」の活動に、発足当初から継続して従業員のボランティア派遣と活動資金の提供を行っております。また、新たな森林保全活動として、東京都八王子市における「高尾の森づくりの会」の活動に従業員がボランティアとして参加して、間伐・植樹作業のお手伝いをしております。

一方、開発途上国の子どもの支援を行う趣旨に賛同し、昨年よりユニセフとタイアップして弊社製品の販売数量に応じて、ユニセフを通じて寄付を行う方式で「タンザニア支援プロジェクト」の取り組みを開始いたしました。

地球温暖化防止のために

伊藤ハムでは地球温暖化防止、二酸化炭素の排出量削減を企業の社会的責任を果たす重要な指標と位置づけ、さまざまな環境負荷低減活動に取り組んでおります。

まず、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出削減などの項目について全生産施設を対象として目標数値を定め、達成に向け日々努力を重ねております。また、省エネルギー対策の一環として、生産施設における給水ポンプや冷凍機のモーターを高効率の機種に更新、照明器具を省エネタイプの機種に更新、空調機を水冷式から空冷式に更新などを実施したほか、西宮工場に太陽光発電設備を導入いたしました。

社会に評価される企業を目指して

伊藤ハムが行っている社会貢献プログラムのいくつかをご紹介させていただきましたが、社会性のない企業は存続し得ないという認識のもと、今後も多方面にわたってさまざまな課題にチャレンジすることで社会貢献を継続し、伊藤ハムグループ全体が真に社会から評価され、愛される企業グループとなりますよう全力を尽くしてまい進いたします。

伊藤ハムグループが実施いたします社会貢献活動や環境保全活動などにつきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。

この「CSR報告書」を通じて、伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2009年10月

経営方針

伊藤ハムグループは、社会から信頼される企業であり続けるために、事業分野はもちろんのこと、地球環境への配慮、企業倫理の遵守、社会貢献活動などの分野においても、社会の一員としての責任を果たせるように努力します。

伊藤ハムグループのメッセージは「あふれる笑顔」です。安全・安心な商品をご提供するのことはもちろんのこと、企業精神である「強く、正しく、逞しく」を固く守り、楽しさや安らぎ、喜びを感じていただけるような、明るく元気いっぱいの輝く企業を目指します。

社 是
事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

1. 使命

伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。

2. 経営姿勢

- ・コンプライアンス（企業倫理の遵守）を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
- ・お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
- ・環境にやさしい企業活動を推進いたします。
- ・社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指してまいります。

グループ経営ビジョン

1. 「経営品質の高い会社を目指します。」

コンプライアンス（企業倫理の遵守）を経営の基本とし、コーポレートガバナンスを確実に実現することにより企業の持続性を図るとともに、地球環境に配慮し、社会に貢献できる企業を目指します。

2. 「利益ある成長を続け、企業価値の最大化を図ります。」

食肉事業と食肉を中心とした加工食肉事業を強化し、シナジー効果の見込める成長分野へ積極展開するとともに、海外市場での販路拡大を推進することにより新たな成長を目指します。さらにローコスト経営を推進することで、外部環境に左右されない利益体質を確立します。

3. 「チャレンジ精神の高揚と活力ある企業風土作りを目指します。」

機能的で効率的な組織により、ムダを省きスピードを重視する経営を行います。人材の育成、能力開発を促進するとともに、人事の流動化を図り、活力ある企業風土を醸成します。

コンプライアンス

ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上のために

は、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

コンプライアンスの意味と目的

●コンプライアンスとは・・・

一般的には「法令遵守」を意味しますが、伊藤ハムグループでは「企業倫理の遵守」と定義します。

●コンプライアンスの目的・・・

経営方針に沿って、会社および役員・従業員等が企業活動を円滑に行ううえで、遵守すべき普遍的な考え方を規定し、その実践によって企業価値の向上を目指すとともに社会的貢献に努め企業の持続性を図ることです。

企業倫理規範

1. 公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック

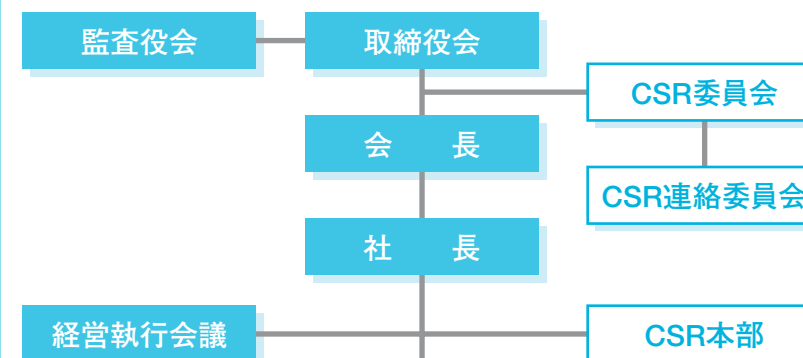
組織

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しています。

CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ、全従業員のコンプライアンスに対するさらなる意識向上、並びに実践の企業風土を徹底浸透させるとともに、内部監査体制の強化・拡充です。

本部長は「コンプライアンス違反行為に対しては社長代行として改善指示が出来る権限」を持ち、その責任は「監査等を通じた問題点の早期発見・社長及び取締役会への報告／現場への改善指示／是正プロセス及び結果の確認と社長及び取締役会への報告」となります。

【CSR推進組織図】



【推進活動内容に対する基本的な考え方】

- ・社会的な常識を正しく認識するための情報提供と指導
- ・社内の問題点を早期に発見し、改善につなげるための積極的な活動
- ・社内各事業本部（本部）機能、管理部門の連携
- ・特定の部署や個人が情報を囲い込むことがないよう、風通し良く開かれた組織風土、企業体質の確立
- ・社内外の声を真摯に聞く、開かれた姿勢
- ・マイナス情報を含めた積極的な社内外への情報発信による説明責任の履行

CSR委員会とCSR連絡委員会

◆CSR委員会

【役割】第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言を行います。

【構成】委員長	島田 恒 (大阪商業大学教授)
委員 (順不同)	堅正 憲一郎 (社外監査役) 藤原 俊夫 (監査役) 篠原 智彦 (伊藤ハム労働組合中央執行委員長) 増崎 知次 (監査室長) 武市 高志 (常務取締役) 市田 健一 (CSR本部長)
事務局	CSR本部・コンプライアンス推進室

◆CSR連絡委員会

【役割】各部署での課題・問題を全社で共有します。

【構成】委員長	CSR本部長
委員	各部門責任者
事務局	CSR本部・コンプライアンス推進室
	コンプライアンス委員

※コンプライアンス委員の活動内容

担当職域内において、
 (1) 委員自らコンプライアンスに関するチェック機能を果たします。
 (2) 従業員からの相談を受け付けます。
 (3) 職場長の補佐として、ルールの周知徹底をしていきます。

コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。



「社内通報規程」

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

情報セキュリティの維持・向上

伊藤ハムグループは、全役員並びに全従業員のIT利用に関して、「伊藤ハムグループIT利用規則」を定め、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様を含めた一般社会に不利益を与える利用を厳しく禁じています。同時に、事業活動にかかわる情報資産のセキュリティ確保および個人情報保護による社会的責任を果たすために、情報技術の進歩や業務環境の変化等も考慮しながら、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価し、情報セキュリティ全般の維持・向上に努めています。

従業員教育

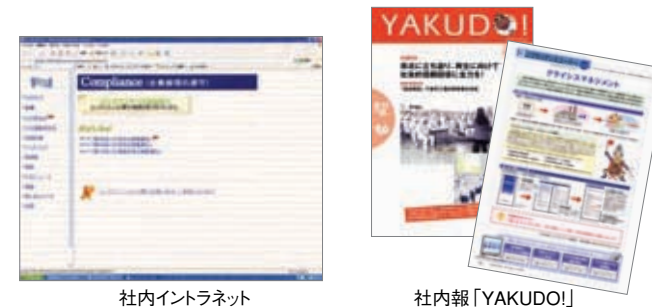
従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。



研修風景

適切な情報の開示および共有化

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っていますが、効果を高めるために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。

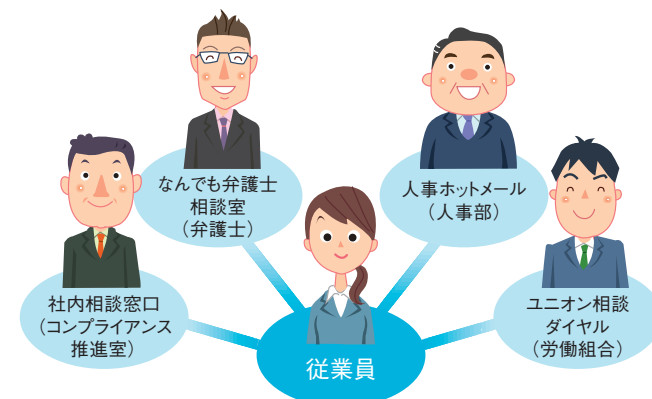


社内イントラネット

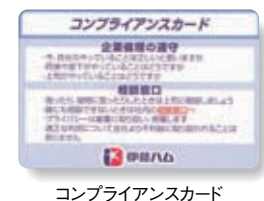
社内報「YAKUDO」

相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



また、社外への窓口として、ホームページとお客さま相談室(フリーダイヤル:0120-011186)を設置しています。



コンプライアンスカード

コンプライアンスデー

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。



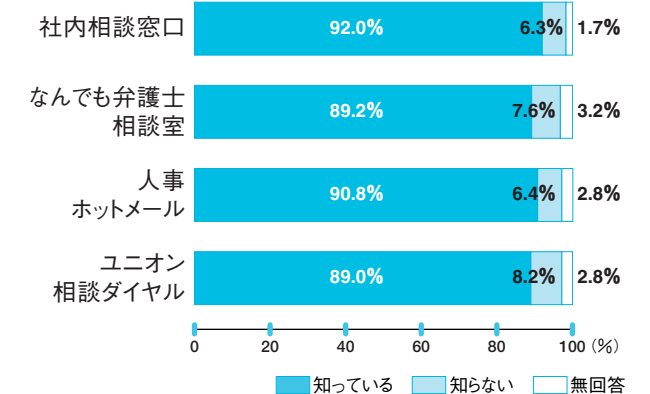
ポスター

意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

【第7回コンプライアンス意識調査結果(正社員対象)】(抜粋)

●あなたは、次の伊藤ハムグループ共通の相談窓口を知っていますか。



目的: コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動に活かすため
 期間: 2008年10月25日～11月17日
 対象: 伊藤ハムグループに所属する社員番号末桁5,6の正社員

トピックス

「社長による経営トップメッセージ」を実施

東京工場の不祥事を受け、伊藤ハムグループとして二度とコンプライアンス違反事件を起こさないための対策のひとつとして、「社長による経営トップメッセージ」を実施しました。弊社グループの置かれた状況を正しく理解したうえで、再生に向けて全員が“心一致”で頑張れるように鼓舞することを目的に、トップが直接従業員に「コンプライアンス徹底」への自らの熱い思いを語りかけました。



安全・安心への取り組み

食肉のトレーサビリティ

お客様に安全とともに安心をお届けするために、「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)」を導入し、食肉のトレーサビリティ(生産・流通履歴の確保)に取り組んでいます。詳しくはホームページをご覧ください。



トレーサビリティのホームページ

<http://www.itoham.co.jp/farm/anzen/tracea/index.html>

食品表示の研修会

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報ですが、伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について、関係法規を遵守し、かつ、お客様にできるだけ分かりやすく表示するように取り組んでいます。

近年、特に表示事項が複雑化し、さまざまな表示基準の改正が行われていることにかんがみ、CSR本部品質保証部では定期的に表示研修会を行ってきました。

2008年は、食品衛生法の改正で、えび、かにのアレルギ表示の義務化、JAS法の一部改正等が行われ、それらに対応するために、弊社グループが商品生産を委託している主なお取引企業様約200名、弊社グループの表示実務者約100名に対して表示改定の運用方法等についての研修会を開催しました。



社内食品表示研修会

ISO22000の取り組み

伊藤ハムでは、2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート(株)有明ミート工場が食肉業界で初となるISO22000を認証取得したのをはじめ、食肉事業部門の全生産事業所でISO22000の認証を取得しました。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP(総合衛生管理製造過程)を取り入れて食品安全に特化した国際規格です。

認証取得事業所一覧 ▶ 35 ページ

品質保証監査

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために伊藤ハムグループの各施設(ハード)や管理(ソフト)が適正に運用されているか等について、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

特に、ハム・ソーセージ等の食肉製品の主力生産工場については、厚生労働省承認のHACCPの基準で、適正に運用生産されているか等について、各工場の品質管理部門と連携して、監査・点検を実施しました。

また、従来より他社に先駆け、伊藤ハムグループ内の営業所・物流・販売店舗の監査、および社外協力工場についても、新規取引開始時の工場審査、取引開始後の定期監査等も実施し、各商品の品質・安全性を確認、検証しました。

お客様の声の反映

もっとおいしくコミュニティ

「もっとおいしくコミュニティ」は“お客様の視点からの自由な発想によるご意見”によって、弊社商品をもっと良い商品にすることを目的として2004年11月よりスタートしました。

参加されているお客様は食品に興味をお持ちの主婦の方で、期間は半年。メンバーの皆様には毎月実施する会合で食に関するテーマに沿って意見交換を行っていただいています。

そのご意見を商品の開発や改良のアイデアにつなげています。



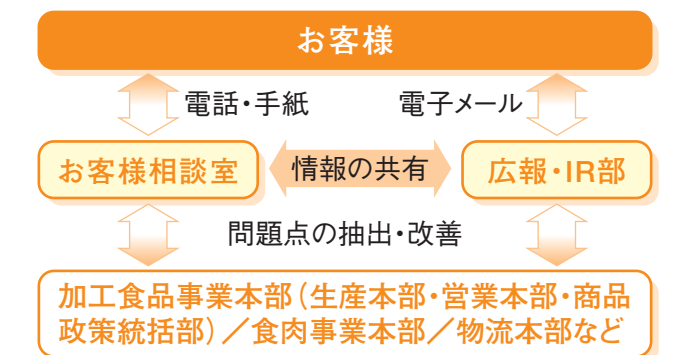
もっとおいしくコミュニティ

お客様相談室

伊藤ハムグループお客様相談室では、お客様からのお問い合わせ・ご意見を、電話やお手紙、電子メールで受け付けています。

特にお問い合わせには、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容については、関係部門と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

【お客様の声を生かすしくみ】



お客様の声を製品に反映

お客様相談室では「お客様の声」を関係部署に伝え、商品の改善、開発に役立てています。

【アレルゲン表示について】

主要商品については、特定原材料5品目(2010年6月より7品目)を分かりやすく表示するようにしました。

本品の原材料で使用されているアレルギ物質
(特定原材料7品目)を○で表しています。

乳	卵	小麦	そば	落花生	えび	かに
○	○					

使用している特定原材料に○印を表示しています。

【栄養成分表示について】

従来は100g当たりのみの表示でしたが、商品特性によって、1個、1本、1パックに換算して表示するようにしました。

「ナトリウム量だけでは、塩分が分からない」とのお客様の声より、主要商品には、塩分も枠外に記載するようにしました。

食育

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。伊藤ハムでは2007年1月、「食育

に関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

「食育」に関する基本理念

食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えてまいります

メインメッセージ

伝えていきたい食べるよろこび

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ

あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



「食」への理解を深める活動

伊藤ハムが考える「食育」をホームページで紹介しています。

1. 私たちの「食育」に関する考え方
 2. 私たちの「食育」への取り組み
 3. なぜ「食べる」ことは大切なの？
- 「食育」の3つのテーマについて、図やグラフを使って、分かりやすく記載しています。ぜひご覧ください。

<http://www.itoham.co.jp/information/educate/index.html>



食育活動のテーマ

伊藤ハムでは2007年を「食育元年」と位置づけ、食育活動に注力。社会貢献活動や店頭での訴求、商品開発、「食」への理解を深める活動などを通じて、「正しい食のライフスタイル」を提案しております。

1 1日の活力源である朝食を食肉加工品や食肉を使って食べることを提案します

最近子どもから大人まで、朝食を食べない人が増えてきています。朝食を抜くと脳のエネルギー源であるブドウ糖が不足してしまいます。その結果、イライラしたり、頭が活発に働かず、勉強や仕事に集中できないという悪影響を及ぼします。

2 良質なたんぱく源である食肉や食肉加工品のバランスの良い食べ方を提案します

食肉はたんぱく質など豊富な栄養素の多い食品ですが、身体に応じた食べ方が必要です。食肉の過剰摂取は健康に良くありませんが、最近高齢者などに多い食肉の過少摂取や、ダイエットでの摂取不足といった問題があります。つまり食べ方のバランスが大事なのです。

3 食肉や食肉加工品を使って野菜をおいしく食べることができるよう提案します

厚生労働省が推奨する成人1日の野菜摂取量は350グラム以上ですが、野菜嫌いや外食などで、摂取不足になることも多いようです。食肉を上手に使って食べ方を工夫することで、野菜はもっとおいしく食べられます。

4 子どもの健全な成長に役立つ食肉や食肉加工品の情報を分かりやすく伝えます

近年、子どもの食物アレルギー疾患が増加する傾向にあります。また、低添加物の食品や、原料原産地などの情報に対するニーズも高まってきました。このような背景から、商品に関する情報を分かりやすく、正しく伝えていくことが食育活動の基本であると考えております。

80周年を記念し、『スマイルキャラバン』を展開

伊藤ハムは創業80周年を記念し、幼稚園児を対象にした食育イベント『スマイルキャラバン』を展開しています。このイベントは、子ども達が「食」に対する興味や関心をもち、正しい食生活を過ごすきっかけとなることを目的としています。第一部では年少組から年長組までの全園児に対して、キャラバンカーを使ったショーやクイズで、朝食やバランスの良い食事の大切さを分かりやすく伝え、第二部では、年長組の園児とお母様にホットドッグやサラダなどを一緒に作っていただき、子ども達が食べ物に関する興味や関心をいだし、さらに作る楽しさを感じてもらおう内容となっています。



第一部
キャラバンカーのショー

第二部
親子でホットドッグ作り

スマイルキャラバンを楽しんだ子ども達

企業情報開示・IR活動

伊藤ハムではさまざまな機会やメディアを通じて、株主や投資家の皆様への適時適正な情報開示に努めています。

ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。



ホームページ画面

「伊藤ハム」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp>

「株主・投資家の皆様へ」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>

株主様向け報告書の発行

株主様向け報告書として、年次報告書および中間報告書を年に1回ずつ発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。



第69期中間報告書

決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

アニュアルレポートの作成

英文のアニュアルレポートを作成し、海外の投資家・アナリスト様に送付しています。

開かれた株主総会を目指して

近年、会社を取り巻く社会情勢が目まぐるしく変化している中、株主総会は経営方針を決定する場としてその重要性が高まっています。

伊藤ハムにおいても、株主総会を最高の意思決定機関として、また株主様と意見を交換できる貴重な場と位置づけ、開かれた総会の運営を目指しています。この一環として、事業報告と計算書類などを報告する場面では、議長の説明に合わせてグラフや写真映像などを大型ス

クリーンに映写するなどし、株主様への分かりやすい説明に努めています。質疑応答の場面では、例年さまざまな視点からのご質問や貴重なご意見をいただき、それぞれに誠意をもって回答するよう努めています。



第68回 定時株主総会

株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、伊藤ハムの製品をより身近に感じていただくことを目的として、株式1,000株以上保有の株主様に対して、年1回（時期6月）、5,000円相当の製品を贈呈する、株主優待を実施しています。



株主優待品（2009年6月送付）

社会貢献活動

伊藤ハムグループの社は「事業を通じて社会に奉仕する」の精神のもと、2003年4月に社会貢献推進委員会を設置し、地球環境への配慮と、地域社会との共生を目指して、社会貢献活動に取り組んでいます。

社会貢献活動理念

伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

社会貢献活動方針

1. 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
2. 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
3. ユニセフ活動及び国内外の被災地救済活動を支援します。
4. 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
5. 従業員の意思と責任に基づく、ボランティア活動を支援します。

“食とeco” わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に実施しています。収穫体験や自然観察、地球環境にやさしい炊事を行います。



「ハム工場を学ぼう」

子ども達の「食」に対する興味・関心を高めていただくことを目的に実施しています。ウインナー手作り体験・工場見学などを行います。



ウインナー手作り教室

朝食の大切さと、栄養バランスの良い食べ方を伝えることを目的に実施しています。ウインナー作り、エコロジッククッキングなどを行います。



被災地救済支援活動

国内外の自然災害に際して、災害にあった人々の生活援助を図ることを目的として、義援金の寄付や当社製品を救済物資として贈る活動を行っています。

- 《2008年度の活動》
- ◆四川大地震の被災地
 - ◆岩手、宮城内陸地震の被災地



ユニセフ支援活動

タンザニア支援プロジェクト～タンザニアの子どもの成長のために栄養を～

創業以来、「事業を通じて社会に奉仕する」の社是のもと、安全で高品質な食肉加工品の普及に努めてまいりました。その結果、良質な動物性たんぱく質の摂取が進み、国民の豊かな食生活と長寿に寄与することができました。

しかし、日本人の豊かな食生活がある一方、世界では年間920万人もの子ども達が、5歳の誕生日を迎える前に命を落とし、その約半数は栄養不良が関係しているといわれています。特にタンザニア・ザンジバルは栄養不良の子どもの死亡率が高く、教育や経済成長の妨げになっています。

弊社では、社会貢献活動の一環として開発途上国の子どもの支援を行うユニセフの趣旨に賛同し支援を行ってきました。さらに、2008年度から対象商品の売上1パックにつき1円を寄付し、タンザニア・ザンジバルの困難な状態にある子どもたちへ、ユニセフを通じて栄養事業を支援します。

初年度は1,566万7,958円をユニセフに寄付しました。この活動は、2010年まで継続して実施します。



従業員募金活動

グループの全事業所で従業員募金活動と、その同額を会社が寄付するマッチングギフトを実施しています。2008年度は116万4,490円を寄付しました。



街頭募金活動に参加

ユニセフが主催する街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」に参加しています。

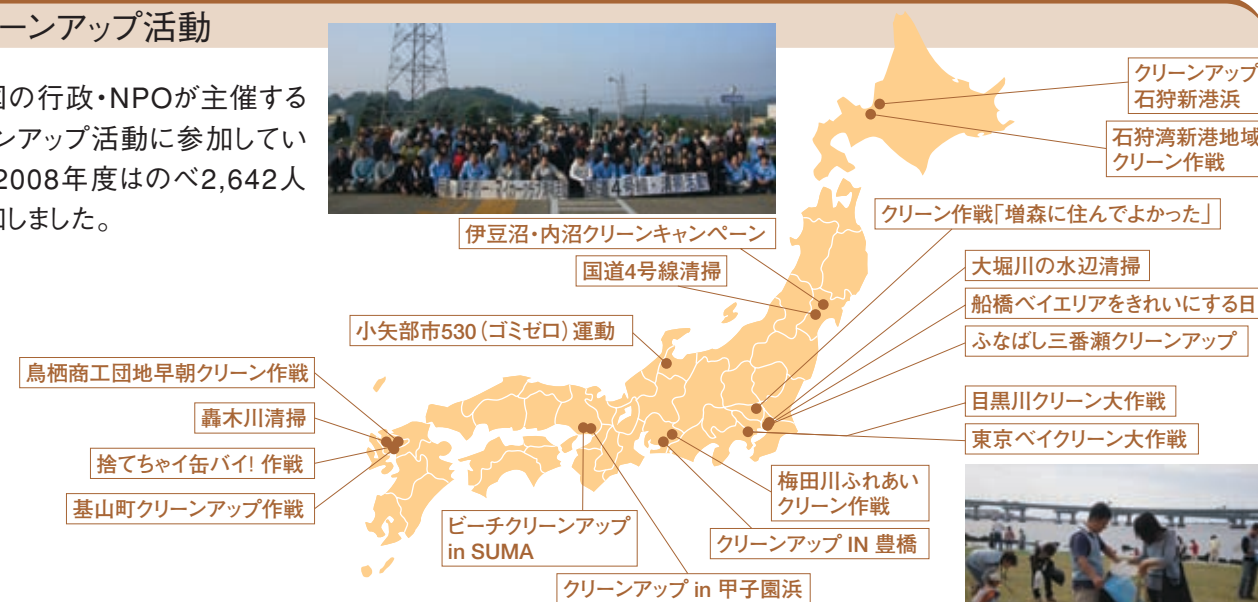


上記以外に「外国コイン募金活動」や「ユニセフ商品の購入」を実施しています。

自然環境保護活動

クリーンアップ活動

全国の行政・NPOが主催するクリーンアップ活動に参加しています。2008年度はのべ2,642人が参加しました。



全国の工場・事業所近隣のクリーンアップも行っています。

こうべ森の学校

市民・行政・企業が協働で行う「六甲山これからの100年の森を育てる活動・こうべ森の学校」に対し、活動資金の提供を行い、従業員もボランティアとして、間伐作業や植樹に参加しています。



高尾の森づくりの会

東京都八王子市で森林保全活動を行う「高尾の森づくりの会」の活動に、従業員がボランティアとして参加し、間伐作業や植樹を行っています。



ボランティア支援活動

表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。



ボランティア休暇制度

環境保全、災害時の被災地救援や社会福祉などのボランティア活動に参加する場合、休暇を取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

ボランティア入門講座

従業員のボランティア意識向上と社会貢献活動への参加を促すことを目的に、社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局 早瀬昇氏を講師に招き、「ボランティア入門講座」を各地で開催しています。



人材の育成・雇用

人材の育成

伊藤ハムグループでは、従業員個々の能力開発を目的とした「次世代リーダー育成プログラム」「キャリア開発支援プログラム」「自己啓発支援プログラム」と、これを組織の成果へとつなげるための質の高いマネジメント風土の醸成を目的とした「マネジメント強化プログラム」の4つの人材育成プログラムを用意しています。従業員一人ひとりの成長と組織の発展をともに実現することがその狙いです。

また、教育研修の多くは応募型を採用しており、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の門戸を開いています。



研修を通じて女性従業員のキャリア開発にも力を注いでいます

次世代リーダー育成プログラム	階層別リーダー育成研修
キャリア開発支援プログラム	新入社員研修・フォロー(入社1～3年目)研修
	階層別キャリアチャレンジ研修
	キャリアデザイン研修(女性社員対象)
	部門別教育研修
自己啓発支援プログラム	自己申告制度・社内公募制度
	通信教育制度(331講座)・語学受験制度
マネジメント強化プログラム	マネジメントスキル研修(管理職対象)
	新任管理職研修・新任役職者研修
	レビュー者研修(女性社員の上司対象)
	目標管理制度

障害者雇用の促進

障害者雇用率は、2008年6月1日時点で2.0%(法定雇用率1.8%)となっています。伊藤ハムは、1993年に法定雇用率(当時は1.6%)を上回って以来、現在まで雇用率を維持し続け、その間「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しています。

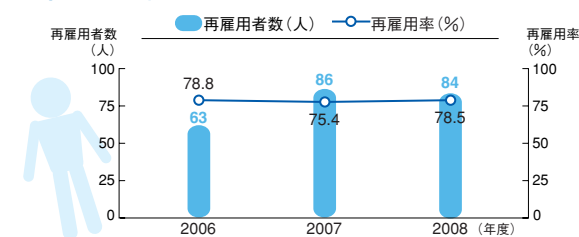
今後とも、障害者が安心して働くことのできる環境・風土づくりになお一層取り組んでいくと同時に、法定雇用率に達していないグループ会社の雇用率向上に向け、各会社が主体性を持って適用業務の整備・拡大を図りつつ、採用活動を続けていく地盤づくりに積極的に取り組んでいきます。

定年退職者再雇用制度の拡充

定年退職後も働く意志のある従業員に気持ちよく働いてもらうことは、従業員および会社双方にとって大きなメリットがあるとの認識のもと、2006年に、従来の「定年再雇用制度」を拡充し、定年を迎える1年前(非正社員は半年前)に本人の意志を確認したうえで、最長65歳まで再雇用を継続する制度を導入しました。再雇用期間は1年ごとの契約とし、毎年継続就業の意志確認を行っています。勤務形態は、従業員本人の希望をできるだけ汲み入れ、契約時間等に関して柔軟に対応しています。

また、2008年4月より、それまで再雇用嘱託と呼称していた資格名を「シニア社員」に改め、再雇用のみでなく60歳を超えた新規採用を進めるなど、少子高齢化に対応した制度運用を目指しています。

定年退職者再雇用実績



仕事と育児の両立を支援

最長2年間の育児休暇期間を安心して過ごし、スムーズに職場復帰ができるよう、2007年に「育児休暇取得者職場復帰支援プログラム」を導入しました。また、「短時間・時差勤務制度」および「フレックスタイム制度」、さらには養育する子どもが病気や怪我をしたときに取得できる「看護休暇」など、職場復帰後の負担軽減を目的とした制度を導入して子育てを支援しています。

2005年4月1日に制定された「次世代育成支援対策推進法」をうけ、すべての従業員が能力を発揮できるような職場環境の整備と、育児休暇などの諸制度の充実を図ることを柱とした、「第一次次世代育成支援行動計画」を策定・実施し、2007年7月に「基準適合一般事業主」の認定を受けました。

さらに、2007年4月1日からは「第二次次世代育成支援行動計画」、2009年4月1日からは「第三次次世代育成支援行動計画」と、段階的に支援強化、制度拡充に努めています。



次世代認定マーク「くるみん」

労働安全衛生

労働安全衛生管理基本方針(2009年度)

- ①労働安全衛生に関する法規制を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
- ②労働安全衛生管理基本方針を周知し、従業員の協力を得て労働安全衛生活動に取り組みます。
- ③従業員が労働安全衛生の高い意識を持ち、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行います。

- ④リスクアセスメントにより、作業及び作業環境の危険性・有害性を明確にすると共に、危険有害要因を除去し、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
- ⑤構内協力会社との連携、情報交換を十分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理に努めます。

中央安全衛生委員会

伊藤ハムグループが一体となって、安全衛生管理を行うために、毎年期初に部門代表者で構成された中央安全衛生委員会を開催しています。委員会では年度の「労働安全衛生管理基本方針」を策定し、これに従って、グループ全社で安全衛生活動を進めていきます。



2009年度中央安全衛生委員会

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、仕事の基本として、安全を身につけるために、「労働安全衛生の基本」の講義を行っています。また、生産工場では主任昇格時に「監督者安全衛生教育」を実施し、監督者のレベルアップを図るとともに職場の安全確保と意識向上に取り組んでいます。



2008年度監督者安全衛生教育受講者

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするためには、心身ともに健康でなければなりません。伊藤ハム健康保険組合では、健康診断、人間ドッグや禁煙推進、ウォーキング大会、メンタルヘルスなどの健康づくりに関する情報を広報誌「きらり」やホームページを利用して、従業員とその家族に向けて発信しています。

安全衛生監査

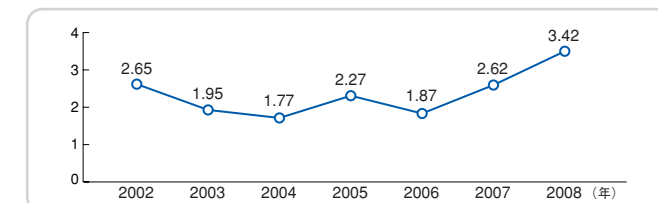
「遵法取り組みの徹底」と「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的に、CSR本部環境安全推進課と本部スタッフ、工場の安全管理者等で構成する監査チームが、年度の安全衛生監査計画に基づいて事業場の監査を行い、継続的な改善活動に努めています。監査プログラムは書類監査とプラント監査からなり、2008年度は63事業場の監査を行い、遵法の指導と危険有害要因の改善に取り組みました。



プラント監査

千人率の推移

伊藤ハムグループ(休業4日以上労働災害)



千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。

心のほっとライン

従業員の心の健康をサポートすることを目的に専門機関「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」と提携し、専門的な支援を受けることができる従業員支援プログラムを導入しています。



社内事務所のポスター

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

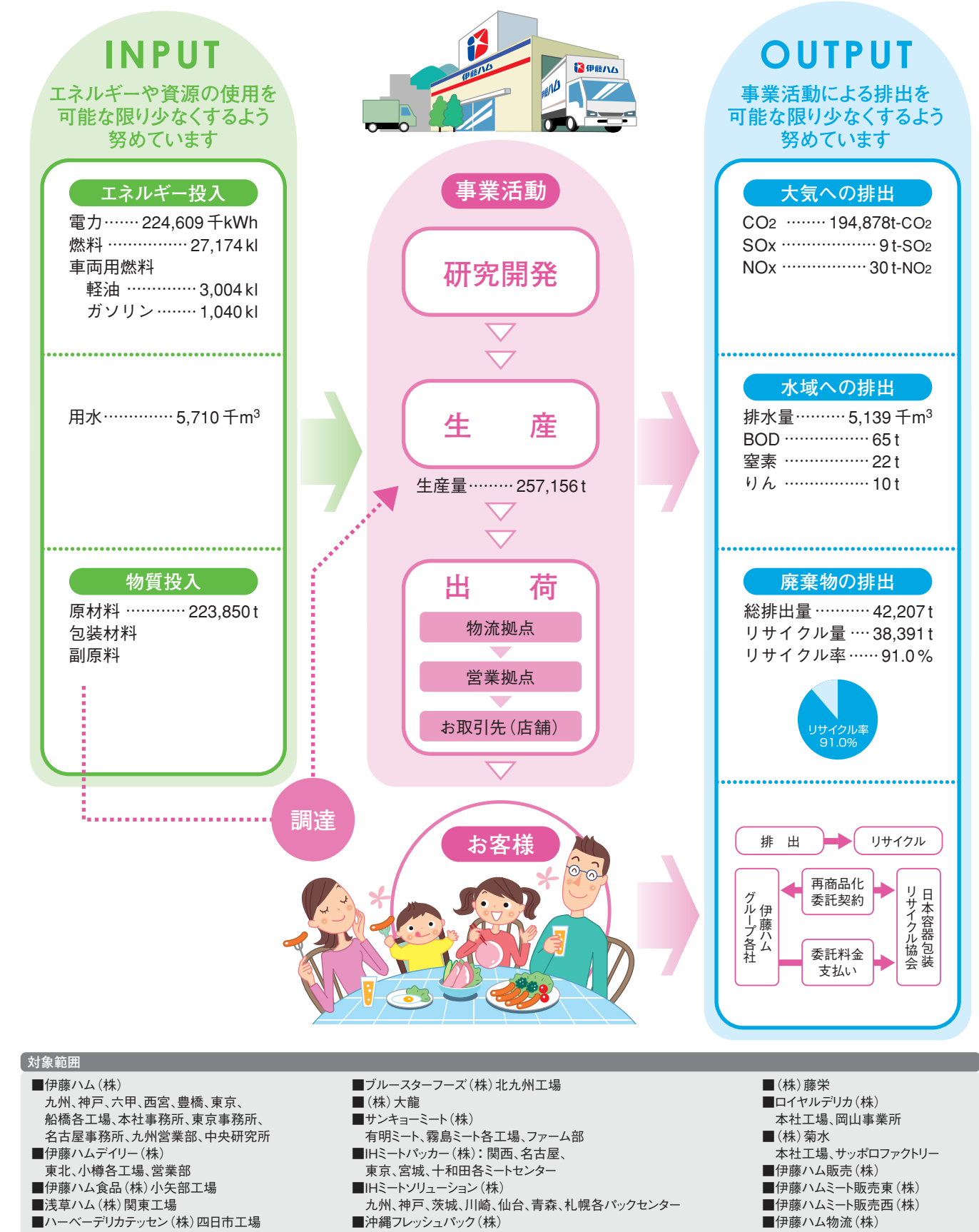
基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

- 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
- 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
- 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
- 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
- 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
- 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
- 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
- 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

環境負荷の全体像



第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2006年度を基準年度とし、2009年度を目標年度とする「第3次中期環境目標」を策定し、環境活動を推進しています。

2年目である2008年度は、高効率モーターへの更新やボイラーのドレン水の再利用、チップ灰の有効利用などを実施し、次の通りの結果となりました。

【第3次中期環境目標】

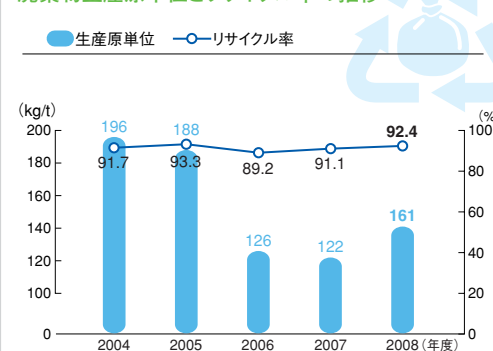
項 目		指 標	基準年度 (2006年度)	2008年度目標値		2008年度結果		評価
				数値	増減	数値	増減	
1) 省エネルギー、省資源の推進		・ 総エネルギー使用量 (GJ/t) ・ 水使用量 (m³/t)	11.7 22.9	11.5 22.5	▲2% ▲2%	11.5 22.1	▲2.0% ▲3.7%	 
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進		・ 廃棄物排出量 (kg/t) ・ リサイクル率 (%)	126 89.2	123 100.0	▲2% 10.8ポイント	161 92.4	28.3% 3.2ポイント	 
3) 温室効果ガスの排出削減		・ 二酸化炭素 (CO2) 排出量 (kg-CO2/t)	687	673	▲2%	662	▲3.6%	
4) グリーン購入の推進	金額ベース	・ 事務用品のグリーン購入率 (%)	93.8	100.0	6.2ポイント	98.1	4.3ポイント	 
	数量ベース	・ 事務機器のグリーン購入率 (%)	98.0	100.0	2.0ポイント	100.0	2.0ポイント	
5) 環境管理体制の充実		・ グループ会社のISO14001認証取得推進 ・ 環境監査の継続実施						

※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー:熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

2 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は**28.3%**増加。
リサイクル率は**3.2ポイント**高めました。

廃棄物生産原単位とリサイクル率の推移



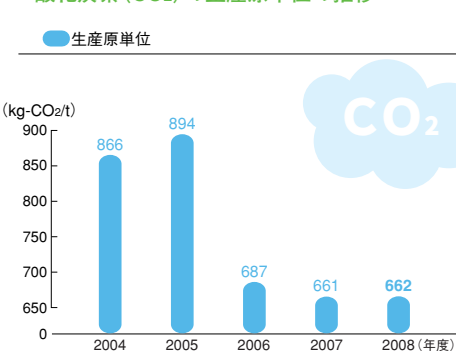
自己評価



3 温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素 (CO₂) 生産原単位は
3.6%削減しました。

二酸化炭素 (CO₂) の生産原単位の推移



自己評価

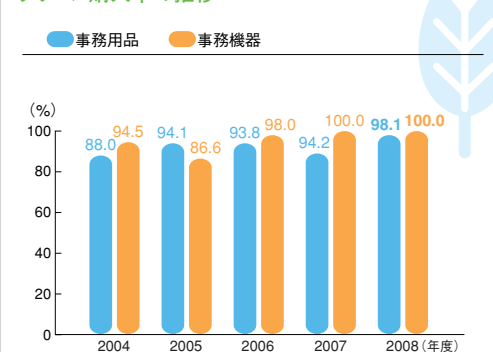


*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条(平成18年3月24日一部改正)」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

4 グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率を**4.3ポイント**
高めました。事務機器は**2.0ポイント**高めました。

グリーン購入率の推移



自己評価



5 環境管理体制の充実

環境監査の対象事業所数を増やし、監査を実施しました。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

項 目	2008年度の結果
ISO14001	認証取得の増減はありません。
環境監査	61事業所で実施(2007年度は35事業所)

■自己評価

-  2008年度の実績が目標値の100%以上でした。
-  2008年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。
-  2008年度の実績が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲(4)

【2007～2008年度】 2007年度より対象範囲を広げました。

■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場

■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
■浅草ハム(株)関東工場
■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場
■ブルースターフーズ(株)北九州工場

【2004～2006年度】

■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場

1 省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は**2.0%**減少しました。

総エネルギー生産原単位の推移

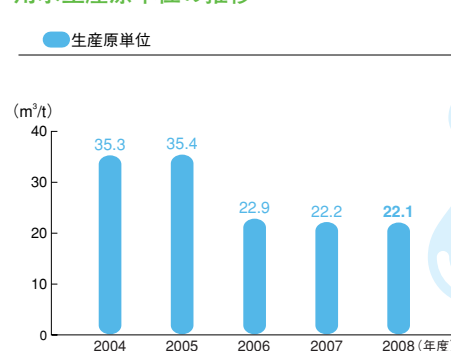


自己評価



用水生産原単位は**3.7%**減少しました。

用水生産原単位の推移



自己評価



対象範囲(1.2.3)

【2006～2008年度】 2006年度より対象範囲を広げました。

■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
■浅草ハム(株)関東工場
■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場
■ブルースターフーズ(株)北九州工場
■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部

■IHミートバック(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
■沖縄フレッシュバック(株)
■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所
■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー
■(株)大龍(2007年度より)
■(株)藤米(2007年度より)

【2004～2005年度】

■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場

2008年度の活動ハイライト

伊藤ハムグループでは、事業活動における環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築に貢献するために、さ

まざまな取り組みを行っています。ここでは、2008年度に行った取り組み内容をハイライトで紹介します。

環境監査の実施

監査計画に基づいて環境監査を実施しています。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

詳しくは ▶ P24



環境監査（ブルースターフーズ（株））



環境監査（船橋工場）

再生可能エネルギーの有効利用

再生可能エネルギーである太陽光を取り入れて発電を開始しました。

詳しくは ▶ P26



太陽光発電設備（西宮工場）

環境委員会「食肉生産部会」の設置

環境委員会「食肉生産部会」を設置し、ISO 14001認証取得に向けての取り組みを始めました。

詳しくは ▶ P24



食肉生産部会（東京事務所）

緊急時の対応訓練の実施

ISO14001認証取得事業所では、環境汚染や環境事故などの突発的事態の発生に備え、定期的に訓練を実施しています。

詳しくは ▶ P25、35



廃油の漏洩対応訓練（東京工場）

廃棄物の削減

豊橋工場では、排水処理で汚泥削減装置を導入し、廃棄物の削減に取り組んでいます。

詳しくは ▶ P27



汚泥削減装置（豊橋工場）

環境ボランティア体験学習

ボランティアへの参加意識を高めるために、従業員とその家族を対象として、自主プログラムによるボランティア体験活動を定期的に開催しています。

詳しくは ▶ P32



課外授業「こうべ森の学校」



クリーンアップin甲子園浜

マネジメント

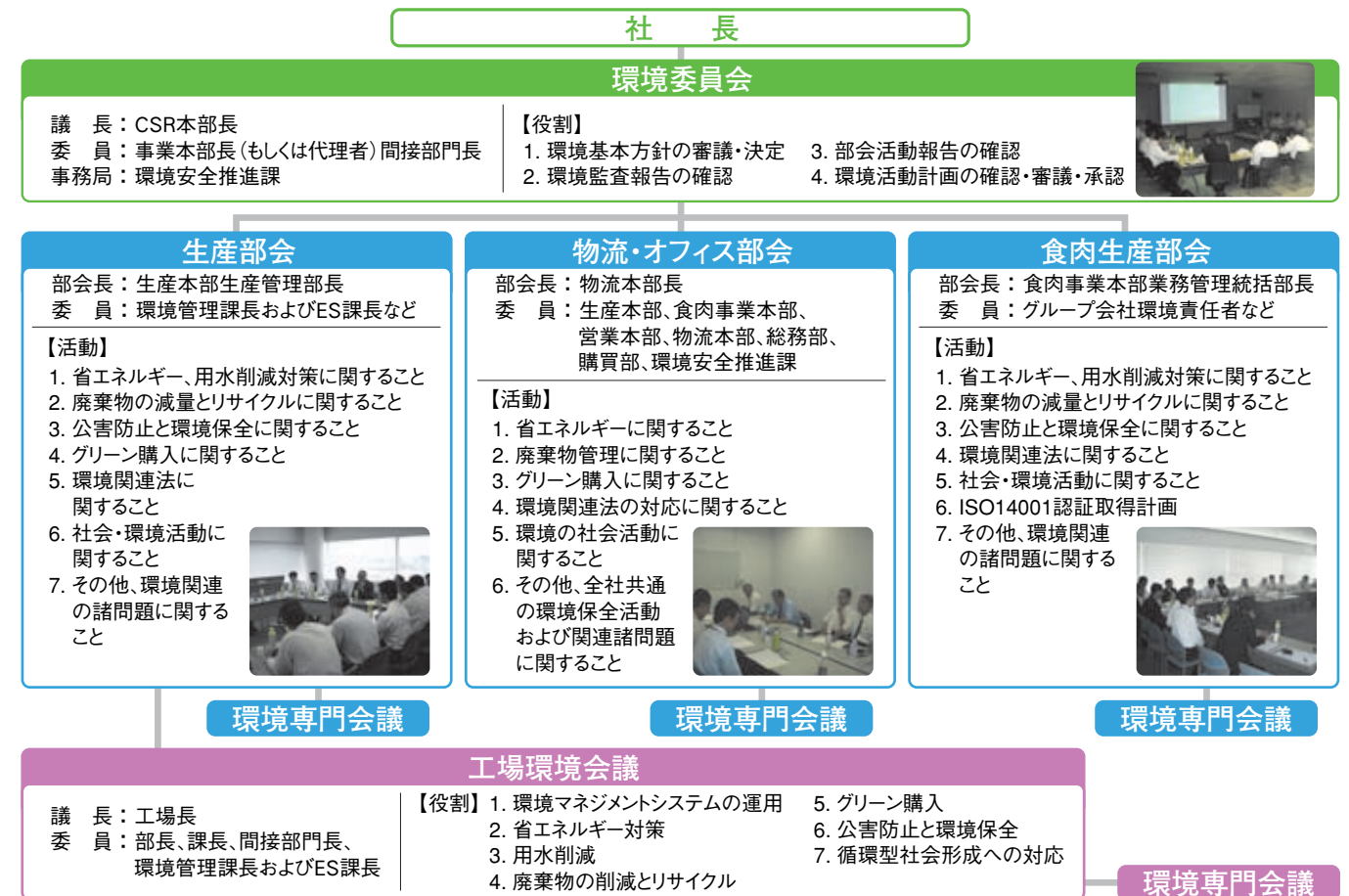
環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを構

築し、運用しています。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、資源やエネルギー、廃棄物問題などに対して、迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決

定しています。2008年度は、食肉生産部門において、組織的に環境保全活動を推進するために「食肉生産部会」を設置しました。



環境監査の実施

事業所内で実施する内部環境監査のほかに、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のより一層のレベルアップを図るために、CSR本部環境安全推進課と工場環境管理責任者などで構成する環境監査チー

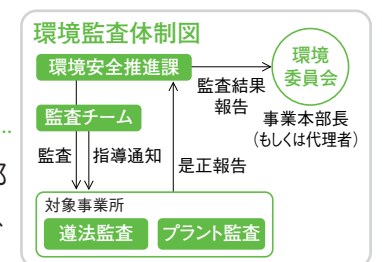
ムが、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。2008年度は、合計61事業所の監査を実施しました。

監査項目

- 環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理など

監査結果

- 廃棄物管理に一部不備がありましたが、すべて是正しました。



ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、国際規格であるISO14001を認証取得しています。



ISO14001サーベランス審査(豊橋工場)

認証取得事業所一覧 P35

グリーン購入

「グリーン購入基本方針」、「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネルギー・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に継続して取り組んでいます。今後も環境に配慮した物品購入に努めていきます。

グリーン購入一覧 P37

関係法規および法の遵守

事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境保全協定などの遵守はもちろん、事業所ごとに規制値より厳しい自主基準値を設けて、遵守状況を管理しています。

さらにCSR本部環境安全推進課などによる「環境監査」を実施し、法令の遵守に万全を期しています。伊藤ハムグループの事業所に適用される主な環境関連法には、次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)
- 資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)
- エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)
- 地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

環境管理へのお問い合わせ

2008年度は次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速に対応しています。対応策実施後、効果を確認し、先様に報告しご了解をいただいています。

	内 容	対応策
臭いのお問い合わせ	工場からの臭気が気になる。	排水処理設備の老朽化が原因で発生したため、臭い等の物質を取り除く除外設備を増設しました。
	工場からてんぷら油のような臭いがする。	排気ダクトの管理が不足していたため、排気ダクト手前のフードにフィルターを設置しました。
	お盆期間中、工場から臭いがする。	お盆休み期間中で工場が稼働していないため、原因不明。管理を強化するために、排水のpHを連続計測できるpH計を設置しました。

緊急時の対応策

事業所の管理範囲外や、敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限に抑えるとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

緊急時の対応訓練一覧 P35

フロンガス漏洩対応訓練
(伊藤ハムデイリー(株)小樽工場)消火訓練
(サンキョーミート(株)ファーム部)

環境負荷低減の取り組み

伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や温室効果ガス、廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな取り組みを実践しています。2008年度に実施した

各部門の主な環境負荷低減の取り組みは次のとおりです。

生産部門

省エネルギーの取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

- 太陽光発電設備を導入しました。
- 断熱効果の高い塗料で工場の屋根を塗装しました。(前年度から継続して実施)
- 給水ポンプ・冷凍機のモーターを高効率モーターへ更新しました。
- 省エネタイプの照明器具に更新しました。



太陽光発電表示設備(西宮工場)



高効率モーター(豊橋工場)

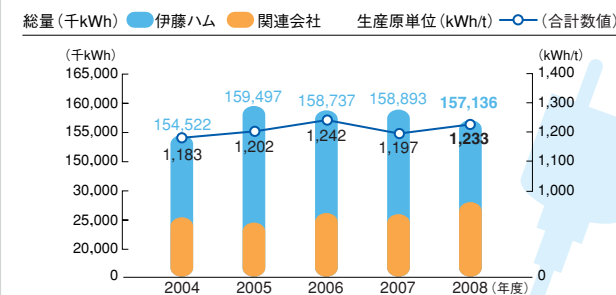
用水使用量の削減対策

- ボイラーのドレン水が回収できるように、ボイラーの蒸気ヘッダードレン配管ラインを変更し、ドレン水を軟水タンクで再利用しました。
- 水冷式空調機から空冷式空調機への更新を進めました。

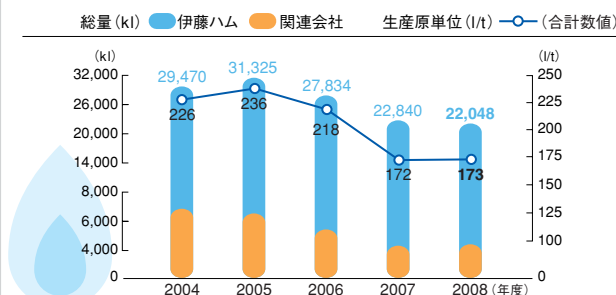


蒸気ヘッダードレン配管ライン(豊橋工場)

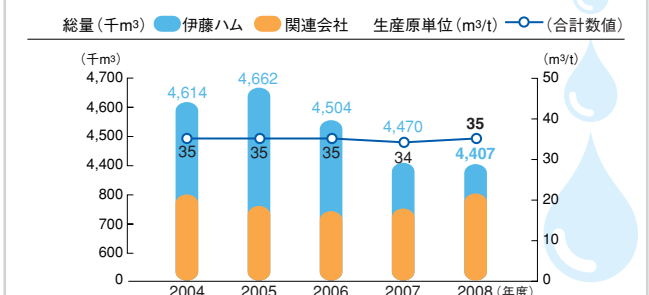
電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の推移



商品の環境負荷低減

- 製品包装材の軽薄化を進めました。
- フィルム・紙トレイ・段ボールの小型化を進めました。



さわやかバックうすぎりホワイトローズ



ラ・ピッツァ マルゲリータ

環境保全活動

Q グリーン購入って何を買うことなの?

A

グリーン購入とは環境への影響が少ない製品を選んで買うことです。例えば、弊社では電力消費量が少ないコピー機やパソコンなどのオフィス機器、詰め替えができるのりや再生紙を使ったファイルなどの事務用品を優先して購入しています。

廃棄物の削減と有効利用

- 加熱ラインから発生するチップ灰を回収し、肥料として有効利用しました。
- 全廃棄物の約半分を占める汚泥を削減装置を導入して、削減しました。

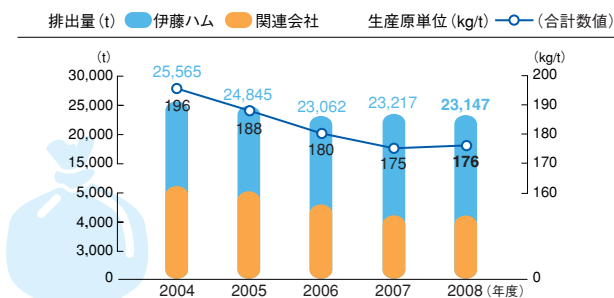


回収したチップ灰（西宮工場）

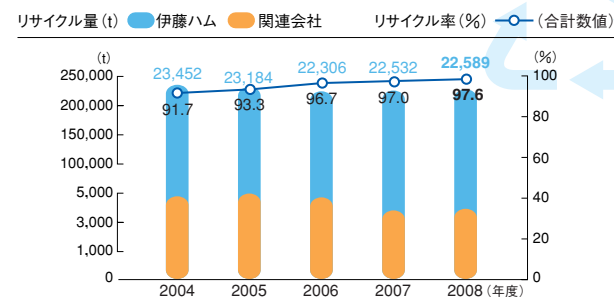


汚泥削減装置（豊橋工場）

廃棄物の排出量の推移

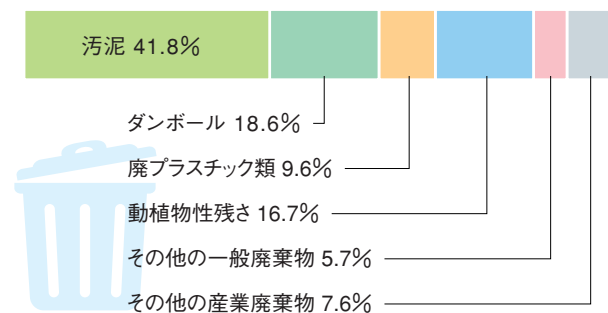


リサイクル量とリサイクル率の推移



廃棄物の排出量の割合

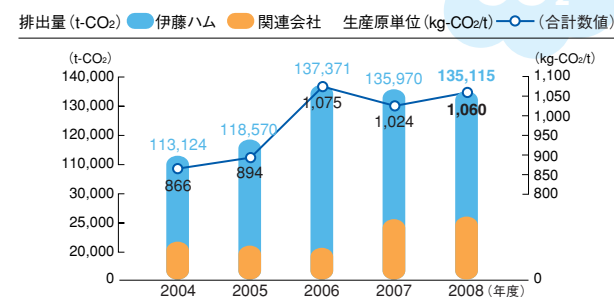
- 生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。



温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- 太陽光発電設備を導入しました。
- フロンガスの漏洩を削減するために、定期的に冷凍設備などの点検を実施しています。
- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、迅速な対応を実践しています。

二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移



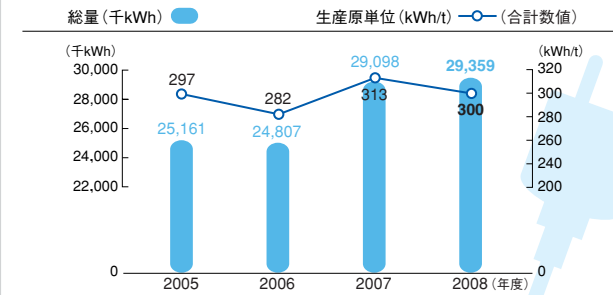
*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

食肉部門

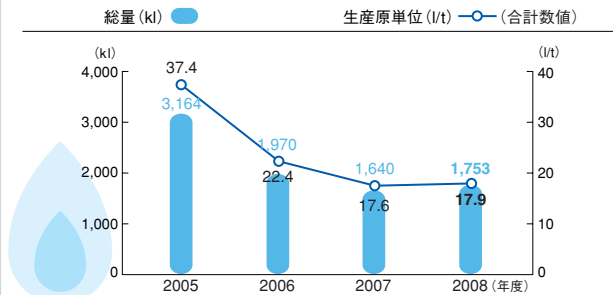
省エネルギーの取り組み（電力、燃料使用量の削減対策）

- 冷やし過ぎることがないように、冷蔵庫・クーラーの温度設定をこまめに調整しました。
- 使用していない動力機械や作業をしていない作業場の照明のスイッチをこまめに切るようにしました。
- 冷凍機を高効率タイプに更新しました。

電力使用量の推移



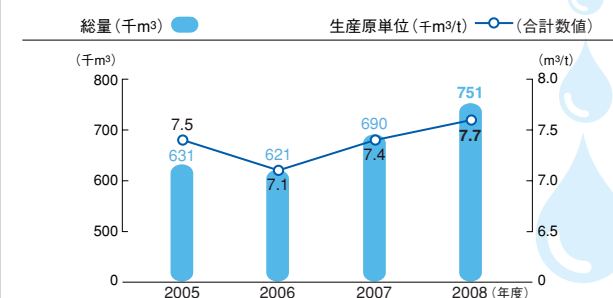
燃料使用量の推移



用水使用量の削減対策

- 清掃時には、必要以上に水を流すことがないように、蛇口の開閉をこまめに調整しました。

用水使用量の推移



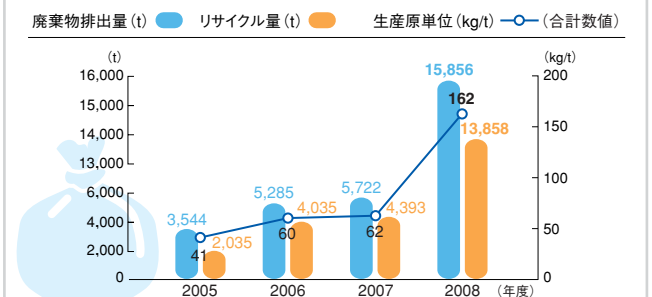
対象範囲

- サンキューミート（株）有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
- IHミートソリューション（株）九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
- IHミートパッカー（株）関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
- 沖縄フレッシュバック（株）（株）藤栄（2007年度より）

廃棄物の削減と有効利用

- 梱包の作業ミス低減など廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物の分別を徹底し、リサイクル化を進めました。

廃棄物の排出量の推移



*2008年度は廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために大幅に増加しました。

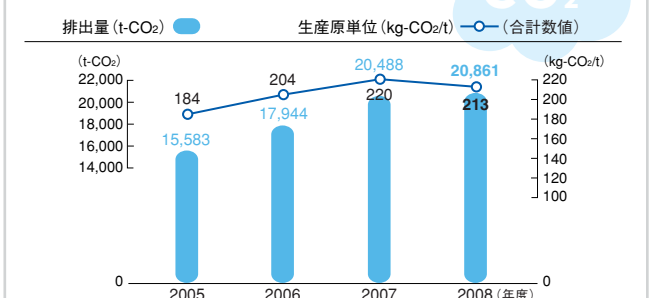
温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- ボイラーの燃料を灯油から二酸化炭素排出係数の低い都市ガスに変更し、二酸化炭素排出量を削減しました。
- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、規制値超過の未然防止を強化しています。



灯油から都市ガスに燃料転換したボイラー（IHミートパッカー（株）東京ミートセンター）

二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移



*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

環境保全活動

温室効果ガスって何？

A

地表から放射された赤外線の一部を吸収して温室効果をもたらす大気圏の気体の総称です。京都議定書での排出量削減対象となっていて、環境省による年間排出量などが把握されている物質として、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄の6種類があります。

物流・営業部門

省エネルギー、二酸化炭素排出量削減の取り組み
(電力、燃料使用量の削減対策)

- 積み合せ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなど、輸送効率を向上させました。



「エコドライブ実施中」ステッカー



「エコドライブ推進月間」ポスター

- 保有車両の低公害車（低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など）への転換を進めました。
- 製品を効率的に配送するために、物流拠点の見直しを実施しました。
- ドライバーの運転マナーおよびエコドライブ実践意識を向上させるために、エコドライブ講習を実施しました。
- 車両にエコドライブステッカーを貼り付け、従業員の意識啓発を行い、エコドライブの実践を強化しました。
- 「エコドライブ推進月間」である11月に、ポスターを掲示しエコドライブの実践を強化しました。

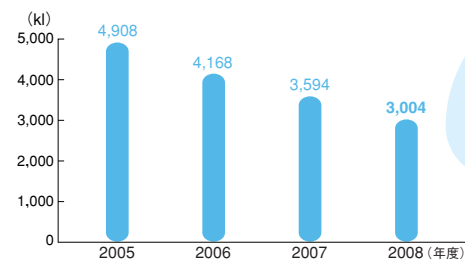


車両の後ろ（左写真）と車内に貼り付けられたステッカー

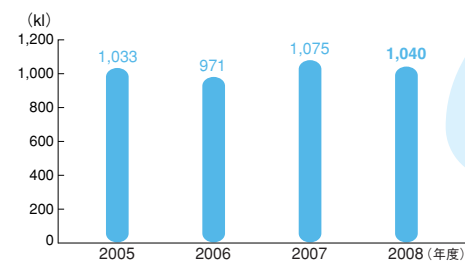
対象範囲

- | | | |
|--|----------------|----------------|
| ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所 | ■伊藤ハム販売(株) | ■伊藤ハムミート販売西(株) |
| ■伊藤ハムデiyリー(株)営業部 | ■伊藤ハムミート販売東(株) | ■伊藤ハム物流(株) |

車両燃料(軽油)使用量の推移



車両燃料(ガソリン)使用量の推移



エコドライブ講習

廃棄物の削減対策

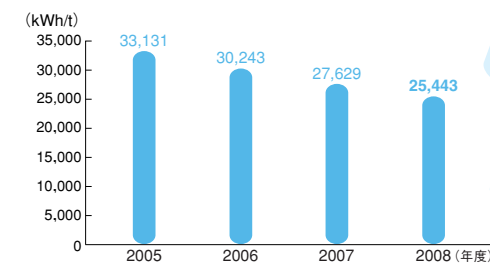
- 過剰在庫とならないように、適正量の発注を心がけ、売れ残りなどの食品廃棄物の発生抑制に努めています。
- サンプルを無駄にしないように、適正量のサンプルを手配するように努めています。

オフィス部門

省エネルギーの取り組み
(電力、燃料使用量の削減対策)

- 省エネタイプの蛍光灯への切り替えを進めるとともに、こまめな消灯を実施しています。
- 使用頻度の少ないFAXを統廃合しました。
- 会議室など、使用後は、その都度こまめに空調機の電源を切り、節電しています。
- 少人数が勤務する時間帯は、従業員が働く区域に限り照明を点灯する、空調を効かせるようにしています。

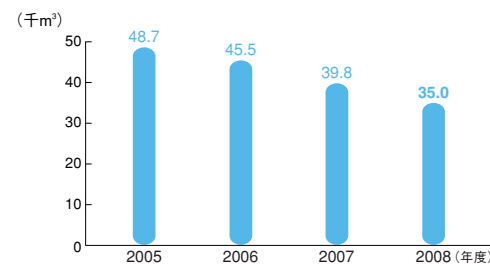
電力使用量の推移



用水使用量の削減

- 給湯室で水を使用する際は、こまめに蛇口を閉めるようにし、節水しています。
- 食器等を洗う際は、洗い桶に水を溜めて洗うようにしています。

用水使用量の推移



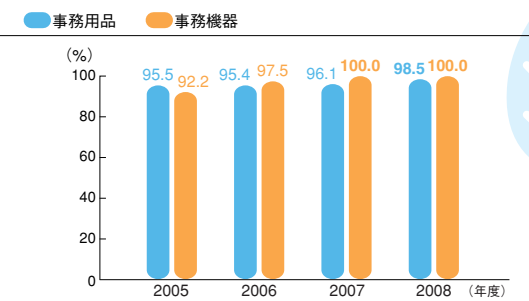
対象範囲(電力使用量、用水使用量)

- | | |
|--|----------------|
| ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所 | ■伊藤ハム販売(株) |
| ■伊藤ハムデiyリー(株)営業部 | ■伊藤ハムミート販売東(株) |
| | ■伊藤ハムミート販売西(株) |
| | ■伊藤ハム物流(株) |

グリーン購入

- 文具、事務用紙、事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。

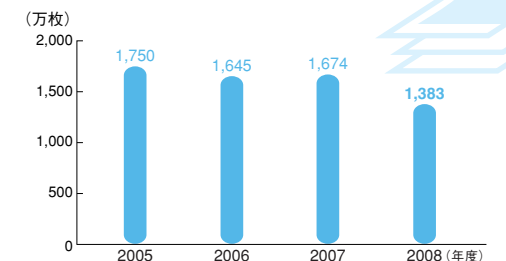
グリーン購入率の推移



コピー用紙の使用量削減

- 裏面の利用、両面印刷や縮小レイアウト印刷など、コピー機の特長機能を有効活用しました。
- データの電子化をよりいっそう進め、データの印刷を控えました。

コピー用紙使用量の推移



対象範囲(グリーン購入率、コピー用紙使用量)

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所

廃棄物の3R推進

- 常日頃から3Rを実施していますが、「3R推進月間」である10月はポスターを掲示し3Rの実践を強化しました。



「3R推進月間」ポスター

* 3R: Reduce (リデュース: 廃棄物の発生抑制)、Reuse (リユース: 再使用)、Recycle (リサイクル: 再生利用)

環境保全活動

エコドライブってどのような運転のこと?

A

「エコロジー(環境)」と「エコノミー(経済・節約)」を考えた「環境に配慮した、経済的な運転」、つまり「燃費を向上させる運転スタイル」のことです。弊社では車両に「エコドライブ実施中」のステッカーを貼り、ドライバーの意識啓発を行い、実践しています。

環境情報開示

伊藤ハムは、環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任であると考えています。CSR報告書や

ホームページなどを通じて、積極的に情報を開示しています。

CSR報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解いただくために、2000年からCSR報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

CSR報告書は来社されたお客様が自由に閲覧、お持帰りいただけるようにしています。

弊社ホームページでも開示しています。

※2000年はエコレポートとして発行、2001年～2004年は環境報告書として発行、2005年～2007年は社会・環境報告書として発行、2008年よりCSR報告書として発行



2003年版
(2003年6月発行)



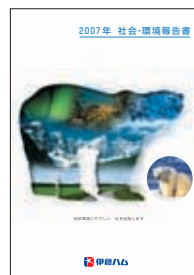
2004年版
(2004年6月発行)



2005年版
(2005年6月発行)



2006年版
(2006年6月発行)



2007年版
(2007年6月発行)



2008年版
(2008年6月発行)

ホームページ

ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、幅広く環境保全活動について情報を開示しています。CSR報告書のほか、エコピックスによる最新の環境活動の紹介やCSR報告書の請求もできるようになっています。また、お客様からのご意見やご感想などをお寄せいただくために、専用のメールアドレスを設けています。

ホームページ： <http://www.itoham.co.jp>
専用メール： eco@itoham.co.jp



トピックス

Webサイトに「グリーン電力」を導入

CO₂削減に貢献するために、Webサイトのサーバ機器の消費電力に「グリーン電力」を導入しました。Webサイトの運用に必要な消費電力をグリーン電力（年間6,156kWh）でまかなうことで、CO₂削減に貢献。この電力量は2.09トンのCO₂削減効果があり、スギの木148.01本が年間で吸収するCO₂の量に相当します。



従業員教育・地域とのコミュニケーション

「地球にやさしい」企業風土の醸成、従業員一人ひとりの環境保全意識を高めるために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。また、ボランティア活

動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境教育

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 営業部門におけるエコドライブ教育
- 社内報「YAKUDO!」に環境関連記事を掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境教育・セミナーなど



新入社員の環境教育



社内報「YAKUDO!」



環境情報掲示板（六甲工場）



環境情報掲示板
（伊藤ハム食品（株）小矢部工場）



営業部門におけるエコドライブ教育

地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）の「環境活動支援プロジェクト」に参加。要望に応じて、環境学習「出前授業」を実施しています。（2008年度は、要望がなく未開催）

環境ボランティア体験学習

- 課外授業「こうべ森の学校」
- クリーンアップin 甲子園浜



再度公園での課外授業（神戸市）



クリーンアップ in 甲子園浜（西宮市）

環境情報の開示および共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるために、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。



社内イントラネットの記事



Eメール

環境保全活動

社会活動や環境活動に対する意見や感想はどうやって伝えればいいの？

社会活動や環境活動に対するご意見やご感想は本報告書差し込みのアンケート用紙でお寄せください。また、弊社ホームページ上の「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」内に専用のメールを設けていますので、そちらのフォームを利用いただけます。

環境会計

2001年度より主要生産工場の環境保全に投入したコスト、投入コストにともなう環境保全効果を集計し、環

境経営に利用。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2008年度環境会計の分析

太陽光発電設備の導入、冷凍設備の更新、廃水処理設備の新設等を実施し、投資額は増加しましたが、事業エリア内コストについては、環境管理設備の充実にもなって公害発生リスクが軽減されたために、公害防止コストが減少しました。また、廃棄物の汚泥発生量が減

少したことにより、資源循環コストが減少しました。
省エネルギー対策、二酸化炭素排出量削減については、今後も内容を精査しながら対策を進め、効果的な投資を行います。

【環境保全コスト】		(単位:千円)					
分 類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		59,469	164,123	104,654	729,960	678,692	▲ 51,268
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	25,380	37,000	11,620	416,914	394,958	▲ 21,956
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	30,884	126,964	96,080	17,521	22,515	4,994
資源循環コスト	廃棄物のリサイクルおよび処理処分費用	3,205	159	▲ 3,046	295,525	261,219	▲ 34,306
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	0	0	0	440,021	343,158	▲ 96,863
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	0	90	90	83,501	65,039	▲ 18,462
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	0	0	0	264	97	▲ 167
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	2,799	2,288	▲ 511
合 計		59,469	164,213	104,744	1,256,545	1,089,275	▲ 167,270

【環境保全効果】				
効果の内容	環境パフォーマンス指標 (単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	2,310,320	2,281,326	▲ 65,729
	電力エネルギー投入量 (GJ)	1,451,666	1,440,123	▲ 47,975
	その他燃料投入量 (GJ)	858,654	769,165	54,284
	用水の投入量 (千m ³)	4,367	4,291	▲ 103
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	131,173	129,866	▲ 4,071
	廃棄物総排出量 (t)	22,549	22,537	▲ 913
	廃棄物最終処分量 (t)	2	8	▲ 6
	総排水量 (千m ³)	3,930	3,862	▲ 93
	BOD排出量 (t)	37	46	▲ 11
その他	SOx排出量 (t)	8	9	▲ 1
	容器包装使用量 (t)	6,936	7,271	▲ 619

※指標の値 原単位調整効果：生産原単位を加味した削減効果
【前期投入量(排出量)×(当期生産量/前期生産量)－当期投入量(排出量)】
※当期生産量/前期生産量＝0.959 ※エネルギー投入量は、購入電力、燃料、購入熱(蒸気)を熱量換算した値 (GJ)

【環境保全対策にともなう経済効果】				(単位:千円)
効果の内容		総金額	原単位調整金額	
収 益	廃棄物の有価売却による収益	63,111	▲ 28,392	
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	▲ 498,166	▲ 622,673	
	用水に係る費用の削減	▲ 68,824	▲ 78,759	
	廃棄物処理費の削減	39,893	28,004	

※指標の値 収 益：当期収益
費 用 削 減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
原単位調整金額：生産原単位を加味した収益【前期収益×(当期生産量/前期生産量)－当期収益】
費用削減・生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量/前期生産量)－当期費用】
当期生産量/前期生産量＝0.959

環境データ

部門別の環境負荷

部 門	INPUT	事業活動	OUTPUT
生産部門 (ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)	エネルギー投入 電力 …… 157,136 千kWh 燃料 …… 22,048 kl 用水 …… 4,407 千m ³ 物質投入 原材料 …… 98,297 t 包装材料 副原料	ハム・ソーセージ類、調理加工食品等の生産 生産量 …… 127,467 t	大気への排出 CO ₂ …… 135,115 t-CO ₂ SOx …… 9 t NOx …… 30 t 水域への排出 排水量 …… 3,967 千m ³ BOD …… 65 t 窒素 …… 22 t りん …… 10 t 廃棄物の排出 総排出量 …… 23,147 t リサイクル量 …… 22,589 t リサイクル率 …… 97.6 %
生産部門 (惣菜、麺類等の調理加工食品)	エネルギー投入 電力 …… 12,671 千kWh 燃料 …… 3,300 kl 用水 …… 517 千m ³ 物質投入 原材料 …… 17,542 t 包装材料 副原料	惣菜、麺類等の調理加工食品の生産 生産量 …… 31,772 t	大気への排出 CO ₂ …… 14,361 t-CO ₂ 水域への排出 排水量 …… 465 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 2,446 t リサイクル量 …… 1,836 t リサイクル率 …… 75.0 %
食肉部門	エネルギー投入 電力 …… 29,359 千kWh 燃料 …… 1,753 kl 用水 …… 751 千m ³ 物質投入 原材料 …… 108,011 t 包装材料 副原料	食肉の処理加工、製造および包装加工等 生産量 …… 97,917 t	大気への排出 CO ₂ …… 20,861 t-CO ₂ 水域への排出 排水量 …… 675 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 15,856 t リサイクル量 …… 13,858 t リサイクル率 …… 87.4 %
物流・営業、オフィス部門	エネルギー投入 電力 …… 25,443 千kWh 燃料 …… 73 kl 車両用燃料 軽油 …… 3,004 kl ガソリン …… 1,040 kl 用水 …… 35 千m ³	製品の物流販売業務全般	大気への排出 (事業所から排出するもの) CO ₂ …… 14,259 t-CO ₂ 大気への排出 (製品の輸送にともなって排出するもの) CO ₂ …… 10,282 t-CO ₂ 水域への排出 排水量 …… 32 千m ³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 758 t リサイクル量 …… 108 t リサイクル率 …… 14.2 %

対象範囲

【生産部門(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)】
■伊藤ハム(株)
九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場
■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
■浅草ハム(株) 関東工場
■ハーバーデリカテッセン(株) 四日市工場
■ブルースターフーズ(株) 北九州工場
■(株)大龍

【生産部門(惣菜、麺類等の調理加工食品)】
■ロイヤルデリカ(株) 本社工場、岡山事業所
■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー
【食肉部門】
■サンキョーミート(株)
有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部
■IHミートバック(株)
関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
■IHミートソリューション(株)
九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター
■沖縄フレッシュバック(株)
■(株)藤栄

【物流・営業、オフィス部門】
■伊藤ハム(株)
本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
■伊藤ハムデイリー(株) 営業部
■伊藤ハム販売(株)
■伊藤ハムミート販売東(株)
■伊藤ハムミート販売西(株)
■伊藤ハム物流(株)

環境保全活動

環境会計って何？

A

環境対策や環境保全を進めるためにどれだけコストをかけたか、その結果、どんな効果が得られたかなどを、定量的に評価することで、自社の環境保全への取り組みをより効率的で効果の高いものにするための経営管理上の分析ツールのことをいいます。

環境データ

【2008年度 緊急時の対応訓練】

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム(株)		
九州工場	薬品漏洩事故防止訓練	2
	汚泥・汚水の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	7
六甲工場	フロンガス等の漏洩対応訓練	5
西宮工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
豊橋工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	8
	重油の漏洩対応訓練	8
東京工場	廃油の漏洩対応訓練	4
船橋工場	水道設備停止時の対応訓練	5
	フロンガスの漏洩対応訓練	3
	汚泥・汚水・廃油の漏洩対応訓練	5

伊藤ハムデイリー(株)

東北工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	3
	フロンガスの漏洩対応訓練	6
	重油の漏洩対応訓練	6
小樽工場	汚水・重油の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	2

【ISO14001認証取得事業所】

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム(株)	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年10月
	九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年 2月
	船橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2003年 5月
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	日本環境認証機構(JACO)	2004年 5月
	小樽工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 4月
伊藤ハム食品(株)	小矢部工場	日本環境認証機構(JACO)	2006年 8月
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2002年 3月
	霧島ミート工場		
	ファーム部		
伊藤ハム物流(株)	仙台共配センター	日本品質保証機構(JQA)	2004年 3月
ロックデールビーフ社(オーストラリア)		NCS International Pty Ltd.	2000年 3月
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd.	2001年 1月

【ISO22000認証取得事業所】

サイト名		認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2005年12月
	霧島ミート工場	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2007年 2月
IHミートパッカー(株)	宮城ミートセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2006年 3月
	東京ミートセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2007年 2月
	十和田ミートセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年 1月
	名古屋ミートセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年 3月
	関西ミートセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
IHミートソリューション(株)	川崎バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2007年12月
	神戸バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年 3月
	札幌バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
	青森バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
	仙台バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
	茨城バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
	九州バックセンター	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月
	沖縄フレッシュバック(株)	日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年11月
(株)藤栄		日本海事検定協会キューエイ(NKKKQA)	2008年12月

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム食品(株)		
小矢部工場	重油の漏洩対応訓練	2
サンキョーミート(株)		
有明ミート工場	重油の漏洩対応訓練	10
	消防訓練	48
霧島ミート工場	重油の漏洩対応訓練	11
ファーム部	薬品の漏洩対応訓練	3
	消防訓練	17
伊藤ハム物流(株)		
仙台共配センター	消防訓練	74

【エネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	154,522	159,497	226,552	229,108	224,609
燃料 ^{※1}	総量(kl)	29,470	31,325	38,463	32,898	31,187
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	3,147,310	3,317,160	3,216,269	3,272,177	3,212,647
用水	総量(千m³)	4,614	4,662	5,732	5,773	5,710

		伊 藤 ハ ム				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	129,448	135,375	140,156	139,460	135,468
燃料 ^{※1}	総量(kl)	22,319	24,526	22,406	19,202	18,122
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	2,331,924	2,537,926	2,034,558	2,040,996	1,989,432
用水	総量(千m³)	3,803	3,889	3,774	3,713	3,610

		関 連 会 社				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	25,073	24,123	86,396	89,648	89,141
燃料 ^{※1}	総量(kl)	7,151	6,800	16,057	13,696	13,065
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	815,386	779,234	1,220,174	1,231,181	1,223,215
用水	総量(千m³)	811	773	1,958	2,060	2,100

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲		
【2006～2008年度】 2006年度より対象範囲を広げました。		
■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所	■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター	■伊藤ハムミート販売東(株)
九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場	■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター	■伊藤ハムミート販売西(株)
■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場、営業部	■沖縄フレッシュバック(株)	■伊藤ハム物流(株)
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場	■(株)藤栄(2007年度より)	【2004～2005年度】
■浅草ハム(株)関東工場	■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所	■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場	■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー	■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場
■ブルースターフーズ(株)北九州工場	■伊藤ハム販売(株)	■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
■(株)大龍(2007年度より)		
■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部		

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	154,522	159,497	158,737	158,893	157,136
	生産原単位(kWh/t)	1,183	1,202	1,242	1,197	1,233
燃料 ^{※1}	総量(kl)	29,470	31,325	27,834	22,840	22,048
	生産原単位(l/t)	226	236	218	172	173
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	3,147,310	3,317,160	2,369,390	2,390,720	2,369,538
	生産原単位(GJ/t)	24	25	19	18	19
用水	総量(千m³)	4,614	4,662	4,504	4,470	4,407
	生産原単位(m³/t)	35	35	35	34	35

		伊 藤 ハ ム				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	129,448	135,375	132,989	132,158	129,067
	生産原単位(kWh/t)	1,173	1,186	1,242	1,206	1,257
燃料 ^{※1}	総量(kl)	22,319	24,526	22,376	18,630	17,609
	生産原単位(l/t)	202	215	209	170	172
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	2,331,924	2,537,926	1,962,262	1,967,333	1,924,242
	生産原単位(GJ/t)	21	22	18	18	19
用水	総量(千m³)	3,803	3,889	3,758	3,697	3,596
	生産原単位(m³/t)	34	34	35	34	35

		関 連 会 社				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
電力	総量(千kWh)	25,073	24,123	25,748	26,735	28,069
	生産原単位(kWh/t)	1,233	1,303	1,242	1,155	1,131
燃料 ^{※1}	総量(kl)	7,151	6,800	5,457	4,210	4,439
	生産原単位(l/t)	352	367	263	182	179
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	815,386	779,234	407,129	423,387	445,295
	生産原単位(GJ/t)	40	42	20	18	18
用水	総量(千m³)	811	773	746	773	811
	生産原単位(m³/t)	40	42	36	33	33

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象範囲		
【2006～2008年度】 2006年度より対象範囲を広げました。		
■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場	■浅草ハム(株)関東工場	■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場
■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場	■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場	■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場	■ブルースターフーズ(株)北九州工場	■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
	■(株)大龍(2007年度より)	

環境データ

【二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移】

(単位:t-CO₂)

	合 計				
	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
排出量 (t-CO ₂)	113,124	118,570	200,377	199,638	194,878
伊 藤 ハ ム	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
	89,534	95,620	111,771	115,573	112,716
関 連 会 社	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
	23,590	22,950	88,606	84,065	82,162

※二酸化炭素については、2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

対象範囲

【2006～2008年度】 2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所 ■九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場、営業部 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場 ■浅草ハム(株) 関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株) 四日市工場 ■ブルースターフーズ(株) 北九州工場 ■(株) 大龍(2007年度より) ■サンキョーミート(株) 有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部	■IHミートパッカー(株) 関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株) 九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株) 藤栄(2007年度より) ■ロイヤルデリカ(株) 本社工場、岡山事業所 ■(株) 菊水本社工場、サッポロファクトリー ■伊藤ハム販売(株)	■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株)
【2004～2005年度】 ■伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場		

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素 (CO₂) 排出量の推移】

(単位:t-CO₂)

	合 計				
	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
排出量 (t-CO ₂)	113,124	118,570	137,371	135,970	135,115
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)	866	894	1,075	1,024	1,060
伊 藤 ハ ム	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
	89,534	95,620	111,771	110,106	107,905
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)	812	838	1,044	1,005	1,051
関 連 会 社	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
	23,590	22,950	25,600	25,864	27,210
生産原単位 (kg-CO ₂ /t)	1,160	1,239	1,235	1,117	1,096

※二酸化炭素については、2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

対象範囲

【2006～2008年度】 2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場	■浅草ハム(株) 関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株) 四日市工場 ■ブルースターフーズ(株) 北九州工場 ■(株) 大龍(2007年度より)	【2004～2005年度】 ■伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
--	--	--

【フロンガス (HCFC-22) 排出量の推移】

(単位:kg)

	合 計				
	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
HCFC-22	7,626	4,410	4,765	4,091	3,328

対象範囲

【2007～2008年度】 ■伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場	■浅草ハム(株) 関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株) 四日市工場 ■ブルースターフーズ(株) 北九州工場	【2004～2006年度】 ■伊藤ハム(株) 九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
--	---	--

【グリーン購入の推移】

対象品目		グリーン購入の割合 (%)				
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
事務用品 (金額ベース)	文具類	93.2	94.4	93.1	95.2	95.4
	紙類	86.4	94.1	94.0	93.9	98.8
	コピー用紙、コンピューター用紙など	88.0	94.1	93.8	94.2	98.1
事務機器 (数量ベース)	OA機器類	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	事務用机、椅子、OAテーブルなど	88.2	77.3	94.3	100.0	100.0
	合計	94.5	86.6	98.0	100.0	100.0
その他	照明器具類	62.4	47.1	64.8	71.2	76.9
	制服類	98.5	99.0	98.3	98.2	96.8

対象範囲

【2007～2008年度】 ■伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場	■浅草ハム(株) 関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株) 四日市工場 ■ブルースターフーズ(株) 北九州工場	【2004～2006年度】 ■伊藤ハム(株) 本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株) 東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株) 小矢部工場
--	---	--

環境保全活動の沿革

年 月

弊社の主な取り組み内容

1965年	・廃水処理設備の導入開始	
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始	
1991年	・生産各工場に「環境管理室」を設置	
1993年	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置	
1994年	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減	
1998年	・営業車輛に天然ガス (CNG) 自動車の導入開始 (業界初) ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 ・「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置	
1999年	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入	
2000年	・西宮工場、豊橋工場、東京工場がISO14001を認証取得 ・オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 ・環境報告書を初めて発行 ・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設	
2001年	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得 ・六甲工場がISO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働	
2002年	・九州工場、サンキョーミート(株) 有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得 ・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定 ・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置 ・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデイリー(株) 東北工場でコージェネシステムが稼働 ・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布 ・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 ・社会貢献活動理念と活動方針を策定	
2003年	・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始 ・船橋工場がISO14001認証取得 ・「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施 ・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート	
2004年	・デイリー物流(株) (=現・伊藤ハム物流(株))、伊藤ハムデイリー(株) 東北工場がISO14001認証取得 ・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞 ・平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施	
2005年	・自然保護をテーマにした「“食とeco” わくわく探検隊」を初めて実施 (春・秋)	
2006年	・伊藤ハムデイリー(株) 小樽工場がISO14001を認証取得 (4月) ・社会貢献活動「環境学習都市にののみやパートナーシッププログラム事業」(「“食とeco” わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント) に対し西宮市長より感謝状を受賞 ・伊藤ハム食品(株) 小矢部工場がISO14001を認証取得 ・「ハム工場を学ぼう」を初めて実施 ・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデイリー(株) 東北工場の重油を燃料とするコージェネシステムを廃止	
2007年	・「環境委員会物流・オフィス部会」を設置	
2008年	・「環境委員会・食肉生産部会」を設置 ・食育イベント「スマイルキャラバン」を実施	
2009年	・西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働	



社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部環境安全推進課
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
T E L : (0798) 66-1289
F A X : (0798) 66-3391
U R L : <http://www.itoham.co.jp>
E-mail : eco@itoham.co.jp
発行 2009年10月



表紙について

良き企業市民として社会のため、子ども達のため、そして地球のために、できることはなんだろう？ 伊藤ハムグループは自らに問いかけながら、全国のクリーンアップ活動への積極参加や「こうべ森の学校」など自然環境保護への支援、食育のイベント「スマイルキャラバン」の開催など、さまざまな活動を行っています。昨年度からはユニセフ支援活動としてタンザニアの子ども達の成長のための寄付をはじめ、西宮工場に年間3万kWの発電能力をもつ太陽光発電設備を導入するなど、新しい取り組みもスタートさせました。こうした一つひとつの活動を積み木のように積み上げて、いつか大きな幸せのお城を造りたい。2009年度CSR報告書の表紙に、私たちはそんな思いを託しました。

次回発行予定 2010年6月



「2009年 CSR報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●

伊藤ハム株式会社

CSR本部 環境安全推進課 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

FAX 0798-66-3391

Q1. 本報告書をお読みになったの評価をお聞かせください。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容 | ☐ 分かりやすい | ☐ 普通 | ☐ 分かりにくい |
| ● ページ数 | ☐ 多い | ☐ 適当 | ☐ 少ない |
| ● デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| ● 活動項目 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| ☐ 会社基本項目 | 1) 会社概要 2) ごあいさつ |
| ☐ マネジメント | 3) 経営方針 4) コンプライアンス |
| ☐ 消費者の皆様とともに | 5) 安全・安心への取り組み 6) お客様の声の反映 7) 食育 |
| ☐ 株主・投資家様とともに | 8) 企業情報開示・IR活動 9) 開かれた株主総会を目指して 10) 株主優待制度 |
| ☐ 地域社会とともに | 11) 社会貢献活動 12) ユニセフ支援活動 13) 自然環境保護活動 14) ボランティア支援活動 |
| ☐ 従業員とともに | 15) 人材の育成・雇用 16) 労働安全衛生 17) 健康管理 |
| ☐ 環境保全活動 | 18) 環境宣言 19) 環境負荷の全体像 20) 第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 |
| | 21) 2008年度の活動ハイライト 22) マネジメント 23) 環境負荷低減の取り組み 24) 環境情報開示 |
| | 25) 従業員教育・地域とのコミュニケーション 26) 環境会計 27) 環境データ 28) 環境保全活動の沿革 |

Q3. 弊社の社会活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q4. 弊社の社会活動について期待されることは何ですか。

.....
.....

Q5. 弊社の環境保全活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない
5) 全く評価できない [その理由: _____]

Q6. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

.....
.....

Q7. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買ご担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係
☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家
☐ 企業の環境・CSRご担当者 ☐ その他(_____)

Q8. 本報告書の内容や社会活動、および環境保全活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....
.....

ご協力ありがとうございました。

お答えいただきましたアンケートは、個人情報を除き統計データとして利用させていただきます。

個人情報に関しましては、ご希望により次年度の「CSR報告書」の発送にのみ利用し、

ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お 名 前			性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご 住 所	〒						
	T E L							

● 次年度の「CSR報告書」の送付を希望されますか? ☐ はい ☐ いいえ

「2008年CSR報告書」アンケート結果について

伊藤ハムグループ「2008年CSR報告書」（2008年6月発行）のアンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動やCSR報告書の制作に活用させていただきます。今年度も裏面に「2009年CSR報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上ご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただきます、CSR活動の取り組みや情報開示を進めてまいります。

2009年10月

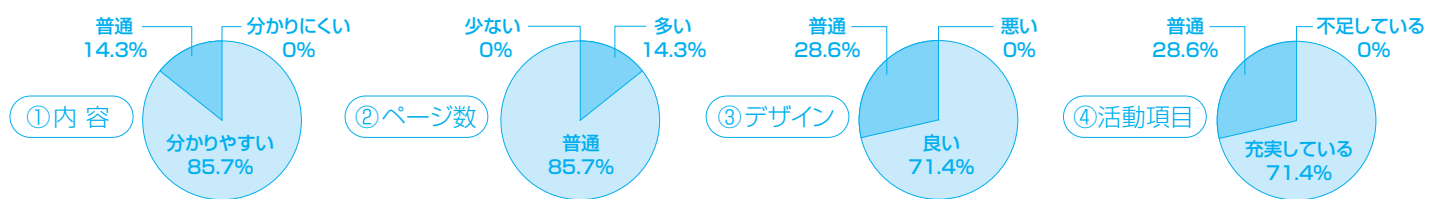
伊藤ハム株式会社 CSR本部 環境安全推進課

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

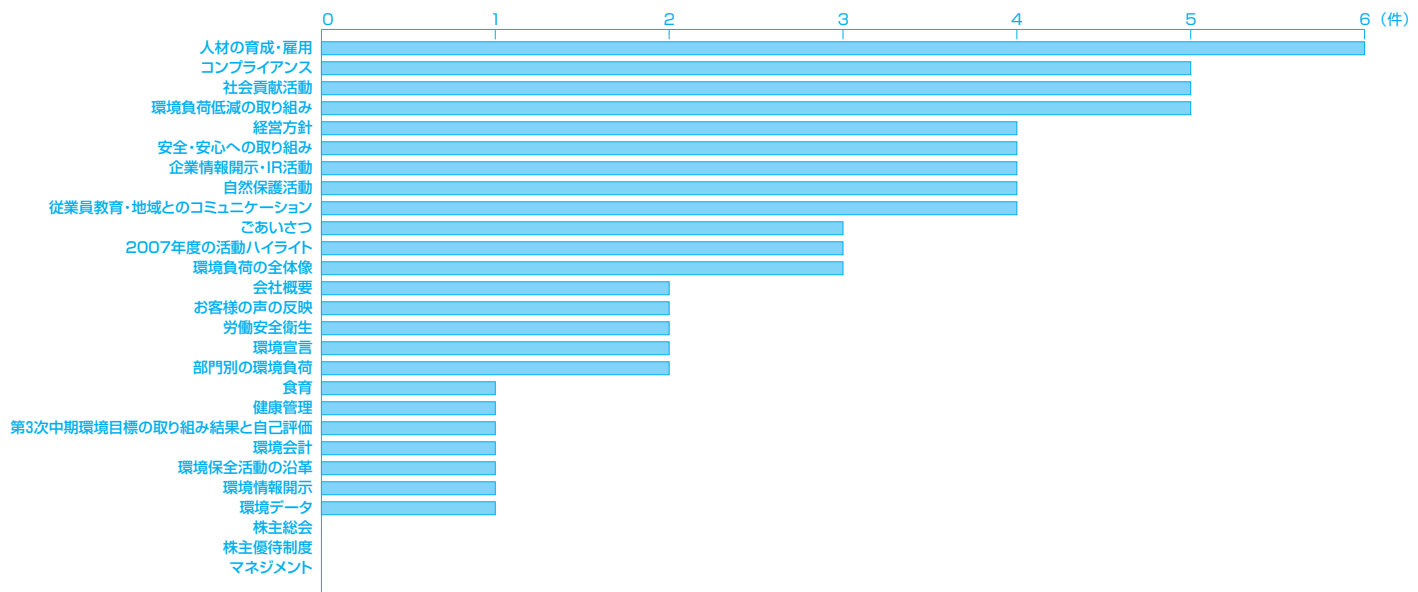
TEL: 0798-66-1289 FAX: 0798-66-3391

「2008年CSR報告書」アンケート集計結果（回収数7通）

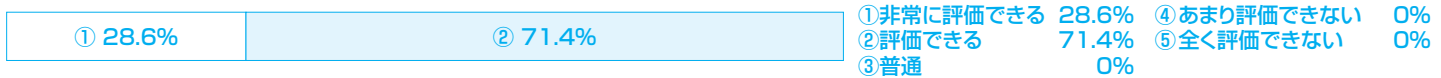
1. 「2008年CSR報告書」の評価グラフ



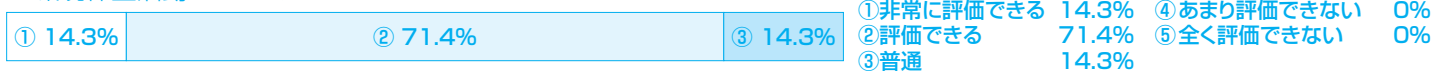
2. 「2008年CSR報告書」の中で興味を持った内容（件数:回答総数67件の内訳）



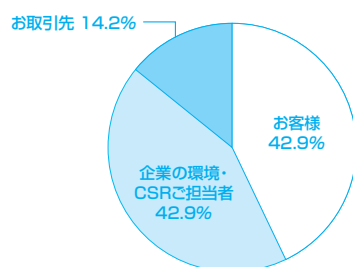
3. 社会活動について



4. 環境保全活動について



5. 「2008年CSR報告書」をどのようなお立場でお読みになられていますか。



6. 「2008年CSR報告書」や環境保全活動、社会活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 地域社会とのコミュニケーションを深めた環境活動を展開してください。
- ゼロエミッションに取り組んでください。
- ボールウイナーがやさしさクリップになって生産原単位や廃棄物発生量、お客様の声も知れた。
- 社会貢献活動、自然保護活動をさらに活性化してほしい。
- キッズプロジェクトは、西宮工場だけではなく他工場でも実施してください。
- 食の安全、信頼を守ってください。
- 負の報告をもっと詳しく書いてほしい。